

V.G 槻 輪 だ よ り

会 報 第 37 号
発行日 平成19年10月31日
発行・編集 V・G 槻 輪
代 表 者 大 岡 成 一
http://web3.ibj.co.jp/~kirin

わがまち紹介 《歴史の散歩道：上牧地区》

上牧地区

上牧という地名は、「上の牧場」つまり天皇の放牧地だったことから来ていて、この辺り一体が天皇や京都の公家のための領地だったようです。

上牧地区は淀川上流から流されてきた土砂で高台になり、「神南備の森」と言われ、木が生い茂った森があったようです。この跡は梶原3丁目の「こすもす児童公園」辺りだそうだが、現在は説明板を残すのみ。「神南備」とは、「神の宿る所」の意味で、この神南備が自然に『上牧』になったとも言われています。

本澄寺

三好達治記念館

文明3年（1471）の創建、足利將軍や京都の公卿烏丸家が崇敬していたといわれる本澄寺。

約三三〇年前の境内の絵図に大きなソテツの木が本堂前や書院の東に大きく描かれています。今も本堂前

に大きなソテツの木があります。



以前の祖師堂は、宝蔵と拝殿に別れていたが、今は一体になっています。

天井・側壁まで絵画が描かれた宝殿の中には、元龜元年（1570）、上牧法華村の住人富松兼重（のち牧兼重に改姓）が、織田信長に従って出陣した際、若狭

國小浜にて日蓮自作と伝えられる日蓮聖人像を感得、当寺に持ち帰った「除厄日蓮聖人」を安置してあり、

「厄除けの高祖」と呼ばれて信仰を集めています。

拝殿の天井や建具の戸には、重厚な彫刻がされています。境内には、15世紀以来上牧・鵜殿一帯の荘園領主で

あった烏丸家の領界石や、昭和の詩人・三好達治の記念館や墓があります。

三好達治は、明治33年（1900）に大阪で生まれ、

萩原朔太郎に師事、「測量船」や「一点鐘」等の清新な詩集を出して活躍した。

記念館には自筆の原稿や写真、著書、愛用の品々などが保存・展示されている。

本澄寺の住職は、三好達治の甥にあたり、沖繩のことを研究され日本の平和の事を真剣に考えておられます。（住職には長時間にわたるお話を有難うございました。）

春日神社（上牧）

春日神社合祀は、天兒屋根命・菅原道真を祭神とする。はじめは一の宮と呼ばれ春日大社の一座であったが、延喜元年（901）菅原道真が九州の大宰府に赴く途中立ち寄った縁から、のちに当社に合祀さ



れたといわれる。

享和2年（1802）の洪水で記録が流出し、創建の年月は不詳であるが、旧上牧・鵜殿・井尻各村の鎮守として信仰が厚かった。

神南備神社は、大正4年

には、古歌にも詠まれた「神南備（かむなび）の森」に鎮座していたが、春日神社に合祀されている。

広い境内には、榎や樟などの古木が生い茂り優れた景観を有している。

鵜殿殿の原碑 ヨシ焼きの記念碑

淀川河川敷の上牧と前島の間に広がる鵜殿では、ヨシなどの大型湿性植物が群生しています。

鵜殿の歴史は古く、紀貫之の「土佐日記」にも登場し、鵜殿を含む鵜殿村（現在の鵜殿町・萩之庄・井尻・上牧のあたり）について、三島江や玉川の里などと共に古くから歴史に登場する。

場所は、桂川・木津川・宇治川の三本の川が合流して淀川になるところである。この場所にヨシが生い茂っていて一年に一度野焼きが行なわれる。昔は単に刈っていただ



けであった。ヨシは燃料・屋根・すだれ・笹（雅楽壺等に利用されていた）

ところが、燃料はプロパンに、屋根（わらぶきヨシぶき）は瓦にとって代わられ、わざわざヨシを刈り取って利用するという風習はなくなった。

しかし、そのヨシ原に雑草が増えつづけるようになったため「ヨシ焼き」が実施されるようになった。（昭和27年頃）つまり昔からの伝統行事ではないということになる。

「ヨシ焼き」が行なわれるようになったある時期、飛び火のため家屋が全焼するという事故が起こり「ヨシ焼き」を中止したこともあった。そうなるとうま雑草が繁殖し過ぎたりして昭和50年に復活したのである。

毎年、鵜殿のヨシ原焼きは地元ヨシ保存会などで実施しています。S・O

11 月度行事予定

《歴史の散歩道：浦堂地区》

日：平成19年11月15日（木）
集合場所：JR高槻駅北 ①バス乗り場 13:00集合
順路：JR高槻駅→浦堂下車→西蓮寺→安岡寺→常行寺→浦堂→JR高槻駅
一般参加者歓迎です。名札をご持参下さい。

12 月度行事予定

《芥川の自然と郷愁に誘われるまちの散策：真上地区》

日：平成19年12月13日（木）
集合場所：JR高槻駅 改札出口 13:00集合
順路：JR高槻駅→西国街道→芥川橋→門前橋→真如寺→笠森神社→緑ヶ丘バス停→JR高槻駅